



松山赤十字病院循環器センターの役割



循環器センター

芦原 俊昭

循環器疾患は、急性冠症候群(急性心筋梗塞、不安定狭心症等)、急性心不全、重症不整脈、急性大動脈解離など緊急治療を要する疾患が多いのが特徴です。緊急時、いかに速やかに循環器の専門施設へ患者搬送を行い得るかが

救命率を上げる大きな要素と考えられます。当センターでは、地域医療に携わる先生方からの要請があれば24時間受け入れる体制【CCUホットライン】をとっております。急性冠症候群(急性心筋梗塞、不安定狭心症等)に対しては緊急のPCI(経皮的冠動脈インターベンション：風船やステントを用いた冠動脈再灌流療法)が24時間体制で可能ですし、心臓血管外科でも緊急の手術に対応しています。また、当院の再来患者さんや当院からの逆紹介で「かかりつけ医」による診療を受けておられる患者さんの病態が急変した時もいつでも受け入れる体制をとっております。

新たな治療法

H19年9月頃からは不整脈に対する治療の一つとしてカテーテルアブレーション(カテーテルを用いて不整脈の原因となる心筋組織を破壊し、不整脈を治療する方法)を始める予定です。またH20年からは、慢性心不全に対して心臓再同期療法および突然死予防のため植え込み型除細動器による治療も開始することになっています。

リスクの差別化

当センターでは、心疾患に対するアプローチとしてリスクの層別化を最も重要と考えております。例えば虚血性心臓病に対しては、低、中、高リスクと層別化した上で、中等度以上のリスクと判断された症例に負荷心電図や負荷心筋シンチを施行し、更に層別化をすすめます。その結果中等度以上のリスクと判断された症例について冠動脈造影(CAG)を施行し、それぞれに最適な治療法を選択します。従ってPCI(インターベンション治療)は胸痛を訴えて来院した症例のわずかに過ぎません。このようにリスク層別化を行うことが不必要な検査・治療を省き、治療効果の改善とともに医療費の有効な利用につながるようになります。

今後の目標

われわれ循環器専門医は、PCIやバイパス手術などをはじめ専門的な技術を用いて治療効果をあげることを求められています。従ってPCIや手術の成績を上げ、その予後を改善する努力をすることは当然です。しかし、今般の医療制度の変更にもなって各専門医がPCIや手術件数を増やすことだけを主目標とするようであれば適切な医療とはいえませんし、患者さんが不利益を被ることになります。手術件数・手術成績を上げるだけでなく、当院循環器センターを受診するすべての症例の治療成績を上げ、予後を改善することが最も重要だと心得ます。私どもは今後とも手術成績は無論のこと、内科的薬物療法の適切な選択によりすべての症例のアウトカムを改善する努力を続けていきたいと考えております。

医療相談室を9月18日にリニューアル

問題解決のお手伝い

当院では、地域がん診療連携拠点病院の指定に伴い、かねてより手狭であった地域医療連携室の医療相談窓口の拡張工事を行いました。

これにより、医療相談カウンターや医療相談室が新設され、プライバシーにも配慮した新たな相談支援体制が整いました。

がんに関する相談に限らず、色々な病気や治療に関すること、療養生活に関すること、医療費・福祉・介護サービス等に関することの質問や相談に応じ、問題解決のお手伝いをさせていただきます。

どなたでも、お気軽にご相談ください。



平成19年度石鎚救護活動報告

西日本最高峰・日本百名山のひとつに数えられる霊峰石鎚山（標高1982メートル）のお山開きに伴う救護活動を関係機関の協力を得て、7月1日から10日にかけて行いました。

この救護活動は、今年で25回目となり、傷病者に対する処置、治療を迅速・的確に行うために、成人社班と土小屋班に分かれ、医師11名、看護師21名、救護主事6名が救護活動にあたりました。

救護期間中は、雨の多い悪条件となりましたが、登山者数19,500名に対し、護送3名、担架搬送5名、救急搬送3名のほか、筋肉痛、虫さされ、関節痛、擦過傷など延べ170名の救護を行いました。



夜空の下で夢きらめく七夕祭り開催

7月7日（土）に松山赤十字看護学校の学生による恒例の七夕祭りを病院のロビーで開催しました。学生達は、この日に向けて2ヶ月前からダンスや劇の練習に取り組み、お面や折り鶴を作り、催し物の準備をしてきました。当日は、多くの方

に参加頂き、金魚すくいやヨーヨー、輪投げなどに患者様の笑顔があふれました。

